（各課様式１）

予　算　要　求　資　料

令和6年度当初予算　　支出科目 款：農林水産業費　項：畜産費　目：畜産研究費

事 業 名 種豚再造成事業費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

畜産研究所　養豚・養鶏研究部　電話番号：0575-22-3165

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

１ 事 業 費　　8,921 千円　（前年度予算額：　　9,139 千円）

＜財源内訳＞

区　分	事業費	財源内訳							
		国　庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財　産 収　入	寄附金	その他	県　債	一　般 財　源
前年度	9,139	0	0	0	0	0	0	0	9,139
要求額	8,921	0	0	0	0	0	0	0	8,921
決定額	8,921	0	0	0	0	0	0	0	8,921

２ 要 求 内 容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

・畜産研での豚熱発生により県ブランド豚を支えるボーノブラウンの種豚を全て殺処分した。

・現在、ボーノブラウンの種豚は一部の県内農家で保有されているが、県内農家での豚熱発生等に伴いその頭数・戸数とも減少した他、豚の寿命は３年程度と短く、県の種豚供給ができない状況では遺伝形質の劣化・消失が懸念されるため、種豚の再造成に段階的に取り組む。

・また、再造成には最低５年はかかるため、それまでの間の緊急的な措置として民間を活用した精液供給にも取り組む。

（２）事業内容

① 種豚の再造成

・県内農家等保有の種豚候補豚等を、整備した豚舎に導入。

② 精液の緊急供給

・県外の民間種豚場の種豚の遺伝領域保有状況を把握し、遺伝領域を持つ種豚からの県内農家への精液供給を実施。

③ 遺伝資源の保存

・最新技術等を用いた精液及び受精卵の凍結保存に取り組む。

（３）県負担・補助率の考え方
・県10/10（従前から種豚造成は県業務として行ってきた）

（４）類似事業の有無
・無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	350	
需用費	4,633	検査キット、凍結精液、凍結受精卵用消耗品等
委託料	2,000	種豚等の飼養管理経費
備品購入費	858	種豚、受精卵凍結用機器
補助金	1,080	精液販売補助
その他		
合計	8,921	

決定額の考え方

事　業　評　価　調　書（県単独補助金除く）

□	新規要求事業
■	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
　畜産研究所養豚・養鶏研究部にて、県ブランド豚を支える種豚ボーノブラウンの再造成を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前(R29)	R4年度実績	R5年度目標	R6年度目標	終期目標(R6)	達成率
①精液供給本数	0	2818	3000	3000	3000	94%

〇指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・県内農家等と委託契約を行い、生産された種豚を買い上げ海津避難地で飼養することで、種豚再造成・精液供給に必要な遺伝資源の保存を図ることができた。 ・県外種豚場の飼養豚の遺伝領域を探査し、計画的な交配・種豚育成を行ったことで、県外種豚場で育成した種豚から県内農家に精液の供給を行うことができた。
令和3年度	・海津避難地で飼養していた種豚を関市の新豚舎に移動し、帝王切開にて種豚候補豚（子豚）を生産できたことで、種豚再造成・精液供給に必要な遺伝資源の保存を図ることができた。 ・県外種豚場の飼養豚の遺伝領域を探査し、計画的な交配・種豚育成を行ったことで、県外種豚場で育成した種豚から県内農家に精液の供給を行うことができた。
	指標①　目標：2,000　実績：　2,672　達成率：　134　％
令和4年度	・種豚再造成のための小規模種豚集団を育成し、研究所の種豚の精液供給を開始することができた。 ・県外種豚場の飼養豚の遺伝領域を探査し、計画的な交配・種豚育成を行ったことで、県外種豚場で育成した種豚から県内農家に精液の供給を行うことができた。
	指標①　目標：3,000　実績：　2,818　達成率：　94　％

２ 事業の評価と課題

（事業の評価）

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） ３：増加している ２：横ばい １：減少している ０：ほとんどない	
（評価） ２	県ブランド豚を支える県保有の種豚ボーノブラウンの再造成は、畜産振興の観点から必要である。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ３：期待以上の成果あり ２：期待どおりの成果あり １：期待どおりの成果が得られていない ０：ほとんど成果が得られていない	
（評価） ３	事業継続することで、種豚の保存が図れるとともに、種豚の育種改良を加速することができる。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ２：上がっている １：横ばい ０：下がっている	
（評価） １	必要最小限の予算で取り組むこととしている。

（今後の課題）

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 岐阜ブランド「ボーノブラウン」の復活に向けて、早期の種豚再造成や精液供給の再開を進める必要がある。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 畜産研究所の再編整備が完了し、精液供給が安定化するまでは継続して取り組む必要がある。

（他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果）

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	